

2018 年度 2 学年イヨボヤプラン（ミラクルⅡ）

1 学期前半 「むらかみえはがき」プロジェクト

地元村上のさまざまな企業への取材をとおりて村上の魅力を発見・再認識するとともに、取材先の魅力を凝縮させた「えはがき」を作成し、村上をPRしました。

STEP① 班編制(同ークラス4～5人)及び訪問先決定

STEP② 取材方法ガイダンス

地元フリーペーパーの記者を講師に迎えました。



STEP③ フィールドワーク(企業への取材)

約 30 の企業に分かれて訪問し、その企業の取り組みや魅力について取材しました。

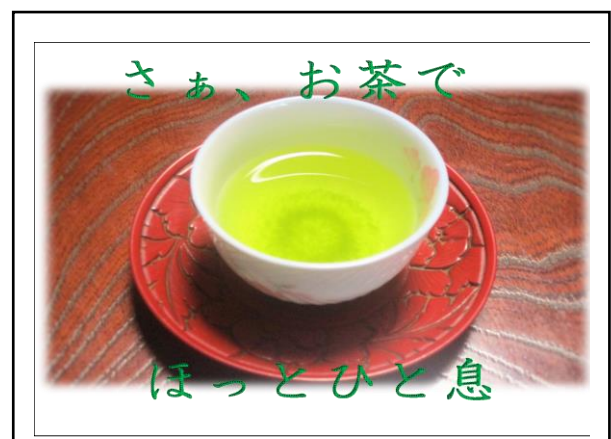


STEP④ えはがき作成

取材したことをもとに、情報の授業などを使ってえはがきを作成しました。

STEP⑤ えはがき相互評価

STEP⑥ 学園祭展示 & 台湾で現地学生にPR



1 学期後半～2 学期 村高ゼミ

1年次の企業訪問で学んだ、地元村上が抱える3つの課題「高齢化」「少子化」「地域活性化」をふまえ、「どうしたら、村をよりよくできるか」を考えていくプロジェクトです。地域の課題と向き合いながら、「問い(論題)」を立て、情報収集し、論理的にまとめていく」という探究学習のプロセスも学んでいきました。



STEP① 班編制(希望分野別)及び探究学習ガイダンス

STEP② テーマ(論題)を立てる

STEP③ 村高ゼミ模擬講義

県内私立大の先生からゼミ形式で自分たちが立てた論題の妥当性や今後の探究学習の進め方などについてアドバイスをいただきました。

【模擬講義テーマの例】

高齢化	「少子高齢化がもたらす地域の医療・福祉のありかた」
少子化	「若い世代の恋愛は社会の未来を変えてゆくだろうか」
地域活性化	「農産食品を起点とした地域活性化」



STEP④ 情報収集

調べるべきことを分担し、夏休みを使って必要な情報を集めました。7月末に行われた「村上市長とのふれあいトーク」では、市長に直接村上の現状や取り組みを教えていただきました。



STEP⑤ 集めた情報の整理、まとめ

夏休み明けから集めた情報を整理し、自分たちの考えをまとめはじめました。



STEP⑥ 発表用スライド作成

10月下旬から発表会で使用するスライド(パワーポイント)作成も始まりました。



STEP⑦ 村高ゼミ発表会

11月末に発表会を行い、自分たちの考えをプレゼンテーションしました。

【発表会後の感想より】

「様々な発表を聴いて視野が広がったように感じた」

「村上はやりかた次第でもっといい所になると感じた」



STEP⑧ 村上フォーラム

3月末には1、2年合同で1年間の活動報告会を実施しました。2年生は6班が代表となり、静岡大教育学部・矢野教授の助言をもとに、村高ゼミ発表会より質・量ともにグレードアップしたプレゼンテーションを行いました。発表したものは冊子にまとめ、後日村上市長にお渡ししました。

代表班の探究テーマ	提言
どうしたら村上の郷土料理を知ってもらえるか	市外・県外からの参加者が多いスポーツイベントで村上の郷土料理を提供してアピールする
高齢化一住みよい村上市にするためにー	高齢者が運動教室に参加することで医療費などの削減につなげていく
どのようにすれば村上市の外国人観光客を増やせるか	「村上大祭ツアー」を作り、村上大祭体験や瀬波温泉宿泊で外国人観光客を誘致する
少子化に向き合う	フランスやスウェーデンなど、他国の少子化政策を見習う
子育ての経済的不安を解消できるか	「お年寄りにごはんを作ってもらおう会」を開催し、余剰食材を使って給食を作る
ニュー村上の実現	「体験型」など、現代人のニーズに合った観光事業を実施し、その収入を町おこしに使っていく



3 学期 志望理由書作成

1、2年次の様々な活動をとおして見えてきた各自の進路目標を、「志望理由書」という形にまとめます。志望理由書の作成・相互評価をとおして、現時点の自分をもっと考えたり調べたりしなければならないことを把握しました。

STEP① 志望理由書作成ガイダンス

STEP② 志望理由書作成

約3週間かけて志望理由書を作成～清書しました。

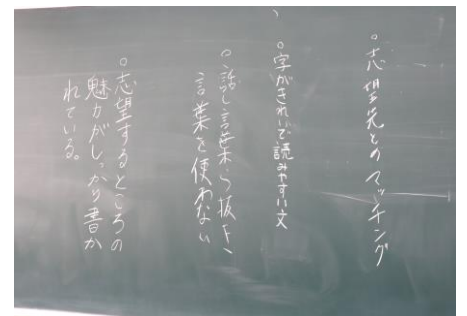
※使用テキスト 「志望理由書・自己PR文完成ノート」(第一学習社)

STEP③ 志望理由書相互評価

志望分野別の班に分かれ、相互評価を行いました。

STEP④ グループディスカッション

相互評価を終えた後、班で「良い志望理由書とはどのようなものか」というテーマで話し合いました。



2018年度 2 学年イヨボヤプラン(ミラクルII)を終えて



様々な取り組みを行って行く中で、徐々にですが生徒の変化を感じる場面も多く出てきています。

例を挙げると、

- ①グループでの学習活動に積極的に参加できる生徒が増えた。
- ②地域貢献意識が高まり、「宵の竹灯籠まつり」では 100 人を超えるボランティア参加者が集まった。
- ③自己の進路を明確かつ具体的に考える生徒が増え、学習に対しても前向きに取り組む生徒の割合が増加した。

※3 年 1 回スタディーサポート(ベネッセ)結果より

今後も生徒が主体的に活動できる場面や機会の提供を積極的に行っていきたいと考えています。